

# 令和8年度 佐賀市立北川副小学校 教育課程

## 1 学校教育目標

人を大切にする子 自律した子 を育てるチーム北川副

## 2 本年度の重点目標

- ◆「人が嫌がること」「人が嬉しくなること」とは何かを考えさせ、実践に繋げる取り組み。
- ◆考え、判断、決定、行動する場面を設ける「子どもが熱中する授業」づくり。
- ◆自分から進んで挑戦し、失敗にくじけず粘り強く取り組もうとする意識を高める。

## 3 重点取組内容

### (1) 学習指導の充実

- ・教科担当制で授業を行い、教員の専門性を生かした質の高い指導と多角的な児童理解を両立させることで、確かな学力の定着へとつなげる。
- ・焦点化、視覚化、共有化というUDの視点から、児童が考えを深めたり広げたりできるような手立てを考えて、日々の授業で実践していく。
- ・校内研究で教師が学び合う場や授業公開・参観する場を設け、「授業を互いに見せ合う文化」「率直に対話する風土」を築きながら同僚性を高め、授業づくりにおける知識・技能を共有し、質の向上を図る。
- ・全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査、WEBQUの結果を分析し、学校全体で課題を共有して具体的な取組を考え、実践していく。
- ・読書活動の推進（「読書デー」や年間冊数・読書50選等の目標の設定）
- ・基礎学力を定着させるための取組を各学年の実態に応じて考え、実践する。
- ・一人一台端末を活用し、個別最適な学びを実践する。

### (2) 生徒指導の充実

- ・「出番」「役割」「承認」をキーワードにして、学校行事や児童会活動、学級活動などにおいて、児童が主体的に学ぶ環境を整え、自己決定できる児童を育成する。
- ・いじめや問題行動の未然防止と早期発見・早期解決のために次の取り組みを行う。
- 「佐賀市いじめ・いのちを考える日」に基づき、児童に「いじめ・いのち」について考えさせる。
- 児童に対するアンケートを定期的に行う。また、年に2回以上児童が教師と話す相談週間「あのねタイム」を設け児童の実態を把握・共有化する。
- 保護者に対して、定期的に学校生活についてのアンケートを実施し、情報収集を行う。
- 体罰防止推進委員会を通して、いじめの防止等に関する措置を行う。
- ・コミュニティスクールとして、学校運営協議会と連携し、児童を見守る体制を維持、推進する。
- ・人権教室・人権集会を定期的実施し、児童の実態に合った学習内容に取り組み、人権意識を高め、実践力を養う。
- ・管理職や教育相談コーディネーターを中心とした支援会議（教育相談部会、ケース会議等）を定期的開催し、不登校及びその傾向のある児童についての共通理解を図る。

### (3) 特別支援教育の充実

- ・月1回の全職員での「子ども支援会議」・学校生活支援員や別室対応支援員とのランチミーティング、年2回の通級指導教室相談会等で、学習面や行動面などに配慮を要する児童のつまずきや課題を早期に把握することに努める。
- ・個別に支援を要する児童については、各担任から特別支援教育コーディネーターに相談をし、必要に応じて校内教育支援委員会を開催し、個々のケースに応じて、配慮することや学習形態、学習場所等の共通理解を図る。また、必要に応じて、保護者面談や各種検査の実施、巡回相談・SC、SSW等の専門家への相談、医療機関の受診を勧め、連携を図る。
- ・特別支援学級が12学級あることや、児童数が増加傾向にあることを鑑み、特別支援教育について、より理解を深められるような研修の実施や、職員の協力体制の構築を進めていく。
- ・どの児童にも分かりやすく集中できる学習環境にするために、「授業のUD」、「生活環境のUD」を進める。学習環境や生活面でのルールは全校で統一し、一貫した指導を心がける。
- ・アセスメントや専門家のアドバイスを基に、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。また、定期的に見直しを行い、個に応じた支援を探っていく。作成した計画は児童理解と適切な支援・次年度への引継ぎに役立て、移行をスムーズに行うようにする。長期休業を利用し、個別の支援や指導の対象児についての情報共有会を開く。（特別支援学級担任と交流学級担任、学校生活支援員、特別支援学級支援員、別室対応支援員らが参加する。）